

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271401269
法人名	有限会社 薫風
事業所名	グループホーム 陽だまりの家
所在地	〒859-2211 長崎県南島原市西有家町里坊109 (電話) 0957-82-0842

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット 日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年9月19日	評価確定日	平成20年10月15日

【情報提供票より】(平成 20 年 4 月 11 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 1月 1日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	25 人 常勤 8 人, 非常勤 17 人, 常勤換算 4.3 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,300 円			

### (4) 利用者の概要(平成20年4月11日現在)

利用者人数	26 名	男性	3 名	女性	23 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	10 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.2 歳	最低	63 歳	最高	100 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	石川内科医院・前川歯科医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周辺は刈り入れ前の水田が広がり、開設7年目を迎え、満足することなく書式やケア面に改善を重ねる職員の姿には「実るほど頭を垂れる稲穂かな」の言葉がふっと浮かぶ。常に家庭と同じ生活を目指し、その人らしく過ごしていただく事に全身全霊を注ぎ、毎日温かく接している。病院や介護老人保健施設を関連法人に持ち、組織を活用した研修を実施し、職員のスキルアップに努めている。又、看取りの経験があり、将来を見据えて積極的に取り組んでいる。職員の笑顔に安心してか、入居者の穏やかな姿が見受けられ、ホットできるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を真摯に受け止め、改善計画シートを作成している。金銭授受の明確化、生活歴の把握に繋がるアセスメントシートの作成、計画書の家族の日付・記名捺印、モニタリングによる計画の見直し、段階的に書式を変更するなど、積極的かつ計画的に質の向上に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価表を全職員に配布はしていないが、全体会議やユニット毎で話し合い、実施している事を詳細に記述している。自己評価を研修の一環として捉えケア面を再確認する事が出来、成果が上がっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、市の担当者・民生委員・家族の代表(3名)・ホーム側が参加して確実に実施している。入居者の状態や疑問点を議題にしているが内容に苦慮している部分がある。参加する家族の交流が出来、成果が上がっているが、サービスの向上にまで至るのは困難である。参加者の検討(例、町内会長・老人会長等)をし、議題を地域に密着した、危険箇所・資源活用・食事の提供状況・市の担当者への質問・家族アンケートを実施し議題とすることで家族の間接参加など様々な話題豊富な充実した会議になる事が期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月「陽だまりの家新聞」を発行し、利用料と一緒に配布している。金銭管理は預かり金規定に基づき明確に実施している。又、必要に応じて電話連絡を実施している。「陽だまりの家新聞」では各棟の実施事項や職員紹介を記載している。家族とのパイプとして考えると、内容(例、ホーム全体の実情・行事・家族ボランティアの受託・医療面や介護面の情報等)の見直しや推進会議の資料送付など更なる充実が期待される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	当初は2ユニットで開設しており、地域のニーズに沿って3ユニットに増設した経緯から必要とされたホームである。周辺は農地であり、作業をしている人とはお茶の差し入れや野菜を頂く関係である。自治会の加入は無いが、緊急時のお願いが増えている。関連施設の夏祭りは入居者と地域の住人の交流の場であり、年々参加者が増加している。又、中学・高校の体験学習の受託や小学生の慰問があり、地域に根ざしている。

## 2. 評価結果 (詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者がかつて家庭で生活していた環境を大切に「認知症であっても一人ひとりが地域の中であたりまえに暮らしながら人間の尊厳を大切にして生きていく」を理念に掲げ、家庭の延長としての生活を目指し、実現に向け理念に沿って支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念を掲げ、職員は介護目標を共有しながら、日々の生活において「会話」と「1日1回の笑顔」を目標として、医療と福祉を総合した尊厳のある生活の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの周辺は農地であり、作業をしている人とはお茶の差し入れや野菜をいただく関係である。自治会の加入は無いが、緊急時のお願いをしている。関連施設の夏祭りは入居者と地域の住人の交流の場であり、年々参加者が増加している。又、中学・高校の体験学習の受託や小学生の慰問があり、地域に根ざしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を真摯に受け止め改善計画シートを作成し、向上に向け積極的に取り組んでいる。自己評価表を全員に配布することは無いが、全体ミーティングやスタッフ間で相談し、実施事項を詳細に記述している。自己評価を職員研修の一環として理解し、前向きな努力が窺える。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、市の担当者・民生委員・家族の代表(3名)ホーム側が参加して確実に開催している。入居者の状態や疑問点を議題にしているが内容に苦慮している部分がある。参加する家族の交流が出来、成果が上がっているが、サービスの向上にまでは至っていない。		運営推進会議は確実に実施しているが、参加者の検討(例、町内会長・老人会長等)をされ、議題を地域に密着した、危険箇所・資源活用・食事の提供状況・市の担当者への質問・家族アンケートを実施し議題とする事で家族の間接参加など様々な話題豊富な会議になる事が期待される。

グループホーム 陽だまりの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在は市町村の担当者が異動になり馴染みとはいかないが、会議通知を出向して手渡したり、地域のイベント情報を入手し参加したり、顔馴染みの関係である。今後、権利擁護等の必要に応じて、積極的に取り組む姿勢が窺える。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「陽だまりの家新聞」を発行し、利用料と一緒に配布している。金銭管理は預かり金規定に基づき明確に実施している。又、3ヶ月毎に自宅を訪問して家族と会話したり、必要に応じて電話連絡を実施している。		「陽だまりの家新聞」では各棟の実施事項や職員紹介を記載しているが、家族とのパイプとして考えると、内容(例、ホーム全体の実情・行事・家族ボランティアの受託・医療面や介護面の情報など)の検討や、推進会議等の資料送付など更なる充実が期待される。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置・3ヶ月毎にケアプランを持って家庭訪問(時には入居者同行)・来所時の声掛けにより、家族の生の声を聞く努力をしており、家族からは感謝の声をいただくことが多い。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	関連法人間での異動は必要最小限にしているが、ユニット間は日常的に共通勤務であり、新人職員は新聞や口頭で紹介している。職員のメンタル面に配慮しながら継続した支援の実施を目指し、利用者と一緒に過ごすことを目標として日々のケアに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	関連法人やホーム内の委員会に所属し、責任とスキルアップに努めている。又、必要に応じて外部からの講師による教育受講の機会を設け、一方では資格取得に向けての研修など、ケア・服薬面を含めた学びの場を積極的に取り入れている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームケア研究会の加入は無いが、研修会に参加する事で、顔馴染みの関係である。他ホームから夏祭りの見学はあるが、訪問することは無く、ネットワークづくりまでは至っていない。		関連法人の関わりにより質の向上に努めているが、同業のグループホームと交流(例、交換研修を視野に入れ)をすることで、同業者であるが故の学ぶ部分(例、書式・催し・空室状況など)や自ホームの優れている部分の理解に繋げ、運営の向上に活かすことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>関連法人・在宅・病院から相談を受け、出向いて面談している。インテークには最新の注意を払い、専門クリニックの必要性やホームの契約書を説明し、サービスを納得して頂いて、家庭と同じ流れでの生活維持を伝えてからの入居に努めている。入居者の不安を軽減する為宿泊を含め、常に最善の方向を支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者とは常に会話をする事で、気持ちや出来ることを把握しながら一緒に過ごし、学び、共に行動し支えあひながら生活している。訪問時のおやつ作りの姿は正にそのまま、入居者との関わりを見ることが出来た。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>介護計画の変更時に家庭訪問を実施し、環境や家族と会話から、アセスメントシートに生活歴や入居者の思いを取り入れ、意向の把握に努め、一人ひとりにあった暮らし方の支援を実践している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者や家族の主訴を踏まえ、目標を沢山ではなく、実現可能な計画を作成している。作成後は自宅訪問をして日付・記名捺印をいただき、同時に会話から課題抽出し、会議で話し合い個別具体的な介護計画を作成している。職員が3ユニット全体の交代勤務であり、計画の共有に不安がある。</p>		<p>介護計画作成は毎月の会議で検討して作成し常時見れる状態ではあるが、会議は全員参加ではなく閲覧状況が不透明である。非常勤職員が多く、3ユニットを交代勤務している状況であるので、介護計画の共有を図るための更なる充実を期待したい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎にアセスメントシート・モニタリング表を記述し、担当者会議を開催し、計画の見直しを実施している。入居者の変化が分かりやすいシートへと試行錯誤を繰り返し、ニーズとサービス提供に誤差を生じない計画作成に努めている。</p>		

グループホーム 陽だまりの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	関連施設でのリハビリテーション・家族の宿泊・看取り・3ヶ月毎の家庭訪問(希望により入居者同行)・医療連携等、希望や必要に応じて多機能性に富んだ柔軟な支援を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である病院を基本として、必要時は専門医受診(歯科医・耳鼻科・認知症専門医等)や看護師派遣を行い、適切な受診支援を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在まで10名の看取りを実施している。看取りに関する指針に基づき、母体の病院と連携を取りながら経過記録を作成している。職員には必要な時期に以前の実施を振り返ることで共有を図り、家族の希望に沿ったケアを一丸となって支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護を重要と考え、マニュアルの作成や情報の漏洩防止が必要な物は事務所で管理している。関連法人において、接遇マナーや身体・言葉による拘束の研修を実施し、尊厳のある優しい対応に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ここでの生活の主人公が誰であるか理解し、入居者にとって何がしたいか、拘束することなく本人のペースで生活していけるよう、希望に沿った支援を実施している。		

グループホーム 陽だまりの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のお手伝い出来る人は、準備や後片付け等の一連の作業を積極的にしている。職員と一緒に準備・食事を行っている姿は、何気なく語らいながら楽しい風景であり、家族の団欒を思わせ日常的に実施していることが窺える。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は熱を計り状態を診て基本的には週3回であるが、入居者の状況(失禁など)により毎日になることがある。バスクリン・菖蒲湯・ゆず湯等工夫をすることで拒否者はなく、清潔保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「自宅でしていた事を変わりなく好きなこと・したいことを自由に」をモットーにしており、植物の世話・金銭(小額)を自己管理し、お買い物・犬の世話・生活全般の出来ること・タバコ(管理しながら)など、趣味を活かした色々なことができる事を試行しながら、活力を引き出す楽しみ事や役割を支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは窓が広く日当たりが良く、戸外にいるような開放感がある。病院受診・行きつけの美容室・買い物・ドライブ・花見・足湯・自宅訪問・家族と共に外出など、出来るだけ外に出る機会を取り入れている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在は徘徊者はなく、玄関は元より居室も状況に応じて窓を開放している。徘徊者の写真の準備や連絡体制、段階に応じた応援体制を明確にしている。近隣にお願いはしているが、入居者の変化に伴い充実を図る予定である。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いで年2回昼夜を想定した火災避難訓練を職員は全員参加で実施している。又、非常時の食料やガスコンロ・水等2～3日の確保がある。地域の住人や消防団の参加はなく、水害・台風・地震を想定した訓練にまで至っていない。		火災避難訓練以外の天災(地震・水害・台風など)の訓練実施や地域の住人や消防団の協力を得る為に運営推進会議でお願いするなど、地域に密着した訓練の実施を期待したい。

グループホーム 陽だまりの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食の大切さを理解し、入居者の状態に合わせ、法人の管理栄養士の指導により、ミキサー・トロミで咀嚼や嚥下に配慮したバランスの良い食事を提供している。又、水分量は1日1200CCを目安に不足しない支援に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは、畑に囲まれ騒音は無く、窓が広く、天井が高く、明るく日当たりの良い居心地の良い空間であり、リビング兼食堂は広いテーブルでゆったりしている。畳の部分があり、冬場はコタツを置き寛げる。夏場の調査ということもあり、雑草が茂っておりテラスなどの整備を含めた環境整備が不足している。		季節的に雑草が茂りやすい季節ではあるが、地域や家族のボランティアを新聞や運営推進会議を活用し、募って手入れをされるなど工夫し、環境整備に取り組まれることを期待したい。又、テラスやエアコンの室外機カバー等の危険箇所の修復をされる事が望まれる。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの準備品はなく、居室には入居者が生活に必要な品(ベット・布団・箆笥・コンテナ・テレビ・仏壇・植木など)を持ち込んでいる。畳の部屋を状況によりカーペットに変えたり、ベットにしたり、それぞれ変化のある居室である。現在壁の利用は無いが、今後の課題である。		